

新たな川崎の未来を考える市民検討会の取組

新たな総合計画策定に向けた市民検討会を、今年7月から8月にかけて無作為抽出した各区600人から参加希望者を募り、年代、性別等を考慮して各区30人を選び開催しました。このたび全区の取組が終了しましたので御報告します。

このような無作為抽出の市民による議論の場づくりは、本市でも新たな試みであり、これまで市政への参加や協働の経験があまりない10代から80代までの幅広い年代の市民から多くの意見を伺うことができました。

いただいた意見を整理し、各局区において参考とするほか、10月に設置する予定の有識者会議及び市民検討会議で活用するなど、総合計画の策定に活かしていきます。

- 午前のワールドカフェでは、7つのグループに分かれて「まちの好きなおところ」や「10年後のまち」について活発な議論が交わされました。途中グループ間で席替えをし、新たなメンバーで議論することで、より多くの意見が引き出されました。
- 午後のグループワークは、参加者の関心のあるテーマで4つのグループに分かれ、午前の議論を踏まえながら意見交換しました。市民と行政の役割なども踏まえた、より深い議論が行われ、テーマごとに「まちの方向性」についてのイメージが共有されました。
- 各区共通の意見としては、「まちの好きなおところ」では、「交通の利便性がよいこと」、「10年後のまち」では、「安全・安心にまちを歩けたり子育てできるまち」や「多世代で交流できるまち」などが出されました。テーマ別では、市の施策等の情報が市民に効果的に伝わっていない現状の改善や、多世代が互いに支え合う関係づくりなどの意見が多く出されました。

【7区の参加者数のまとめ】

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	平均
2	2	8	9	14	16	18	18	15	17	20	10	11	8	8	4	96	84	180	25

1 川崎区（7月5日（土）10時30分～16時、第4庁舎4階第6・7会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1	0	0	2	3	5	0	4	2	0	3	2	1	3	1	0	11	16	14	17	31

2 宮前区（7月20日（日）10時30分～16時、区役所4階大会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1	0	1	1	0	2	4	2	2	3	4	1	3	0	1	0	16	9	28	12	40

3 幸区（7月21日（月・祝）10時30分～16時、区役所5階第1会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	2	1	1	3	3	3	3	0	5	2	1	1	0	1	15	11	20	18	38

4 高津区（8月9日（土）10時30分～16時、区役所5階第1・2会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	0	0	4	2	2	3	1	4	2	2	1	1	1	0	11	12	23	22	45

5 麻生区（8月10日（日）10時30分～16時、区役所4階第1・2会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	1	3	2	3	1	2	2	3	2	2	2	2	0	1	0	16	10	33	23	56

6 中原区（8月23日（土）10時30分～16時、エポックなかはら7階大会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	1	1	3	1	2	3	1	3	3	2	0	1	1	2	2	13	13	18	17	35

7 多摩区（8月31日（日）10時30分～16時、区役所11階 会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	1	0	2	1	4	3	1	5	2	1	2	2	2	1	14	13	20	17	37



川崎の未来を考える市民検討会の意見交換の概要(テーマ別)

区	川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生	
各区共通するもの	市民へのPR不足 (情報が伝わっていない)	・無いと思ったら実はあったという気づきが多く見られた →いろいろなものが知られてないということが課題 →どうやってPRしていくのかを考えることが大事 (通常の広報だけでは無関心な人に届かない。市民の力で声を出していく事が大事)	・情報がきちんと届くことが大事 →既にある情報が区民に伝わっていないため、複数の情報手段を持って区民に届ける体制が必要。	・環境は整っているが、利用者のニーズと合っていないということや、情報があるのに、届いてないと言ったミスマッチが起こっている。		・情報が区役所にあると言われても区民には知られていないのではないか。	・情報のルートを整理することが大事 →他区のワークショップでは、情報が届かないという意見が共通して挙がっていたのに対して、多摩区では、ITを使いこなす力を教え合うなどしていかに情報を取りにいく力を持つかという意見が出た →その他、多様な情報を整理すること、内外への情報発信力を高める事が挙げられた。	・PRの強化 思ったより区ではいろいろなことに取り組んでいることがわかった。それが区民に伝わるPRが必要。区内だけでなく、区外に向けても発信していくとよい。
	既存資源の活用	・無い物をつくるのではなく、既存の資源を活用することが大事 →イメチェンすること×点在する資源をネットワーク化すること		・ハコ物ではなくサービスとしてまち中に機能を増やすという発想が大事 →まちの防災スポットや、保育園をハコとしてではなく既存の空間にサービスやしぐみを付与する形で活用する。	・既にある資源を活用することが大事 →資源とは、活動、人材、情報、場所など	・移動環境を見直し、高齢者の暮らし、観光資源、商業施設などをネットワーク化することで、多摩区の価値を高めることが大事。	・大学連携→農、芸術、文化 ・プロ(区内在住の人的資源)→もっとステップアップするための外部の力を得る。	
	多世代交流	・まちの良いところ×高齢者→健康づくり(元気な高齢者が多いまち) ・地域の人材を求めるとつなぐことが大事 ・元気で知恵のある高齢者→子ども・子育てする親の支援に ・子どもへの教育→母親(家族)へのマナー教育に	・みんなで地域の人も協力して実践すること →古くから地域に住む人と、新しい住民が交流し、コミュニティを育むことが、高齢者の問題や子ども支援などテーマを横断した課題解決につながる。 →また、新旧のコミュニティだけではなく、趣味などでつながる新たなつながりづくりの可能性がみえる	・今にあった方法で、コミュニケーションを改善することが、テーマを横断して必要。	・高齢者が子どもの学びに関わることが大切 →全区に共通するが、高齢者を人材として子どもや子育て層のために活かしていく	・次世代が住みやすいまちにするための多世代交流が必要 →シニアが子どもの学びに関わる事で、子どもは学校では学べない教育を得ることができ、親の負担も減る。	・高齢者も子育て層も地域の中で共に学ぶ事が大事 →多世代がつながるといふキーワードは各区で共通して挙げられている。 ・多摩区では学校で地域と子どもがつながる寺子屋の取り組みが始まっているので、これらが全区に広がる事が期待される。	・世代間交流 ・子ども→郷土に親しみ、農に興味を持つ教育→世代交代へ ・仕事をつくる・地域で働く
特徴的なもの			・課題解決に必要な3つの視点 ①あるものの使い方を工夫すること ②考え方(意識)を変えること ③自助・共助の力を上げること	・体験を通した学びが必要 →若い世代に自然や歴史を学んでもらうために、「体験」というキーワードが共通して挙げられた。	・高齢者が外に出るためのバリアを減らすことが必要 →坂が多い環境ということもあり、出歩くキッカケとなる身近な交通を考える事の必要性や、出歩く目的となる場や機会を充実する必要がある			

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①自転車	<ul style="list-style-type: none"> 平地が多く自転車が利用しやすい バス路線が充実している 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車のマナーが悪く、危険 駅前等の放置自転車が多い 駐輪場が少ない
②高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 昔ながらの人がやさしい（コミュニティがある） 病院が充実している 	<ul style="list-style-type: none"> 病院が少ない
③子ども	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯が増えてきた 	<ul style="list-style-type: none"> 救急小児の受け入れ先が少ない 遊ぶ場が少ない 子連れで行ける場が少ない
④拠点・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 交通が便利（東京・横浜方面や空港へのアクセスがいい） 文化施設や商業施設が充実している ハロウィンなどのイベントがある 海に面している 	<ul style="list-style-type: none"> 空気が悪い→大分良くなった ゴミ 「川崎」のイメージが悪く、知名度も低い
その他のテーマ		<ul style="list-style-type: none"> ホームレスが多く不安 駅前の治安が悪い

テーマ③ テーマ3: 将来（10年後）私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 <ul style="list-style-type: none"> 駐輪場を増やしたい 道路の凹凸を改善したい 放置自転車のマナーを条例で規制したい 	福祉・医療 <ul style="list-style-type: none"> 受け入れ→在宅 公害等に起因した喘息を受け入れる病院を充実させる 高齢者施設、市立病院の改善
子ども <ul style="list-style-type: none"> 働いている親、弱い親にとっても子育てしやすい環境にしたい 人口に見合った保育環境の充実を 遊べる環境を充実させたい 幼稚園を増やしたい 子供達が学べる動画配信 フリーターやひきこもりに対し、若いころから働く大切さを伝えたい 	みどり・環境 <ul style="list-style-type: none"> 老若男女が遊べる場の充実 大きな公園を横につなぐ
拠点 <ul style="list-style-type: none"> 東京・横浜と連携して大きな施策を マンション住民が町会に入れないため、交流できるような地域を横につなぐ 	観光 <ul style="list-style-type: none"> 東京と横浜の通過点にしない、文化都市にしたい
協働・行政サービス <ul style="list-style-type: none"> ライフプランごとの行事やサービスにアクセスしやすくしたい→情報を知る機会を充実させたい 町会を活用・活性化させたい 	その他 <ul style="list-style-type: none"> 市営住宅の充実 新住民と古くから住む人がコミュニケーションが取れる 住みたい区、買いたい区に！

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

【自転車】 川崎区は平地が多い地形であるため、自転車が利用しやすいことが利点であり、一方で自転車の利用マナーの悪さや放置自転車、駐輪場不足の問題が多く挙げられた。バス路線が充実しているという意見が多い一方で、放置自転車の問題は駅だけではなく、バス停にも多く見られているという問題も確認された。その他、道路の段差の問題などが挙げられた。

【高齢者】 昔ながらのコミュニティがあり、地域のつながりが深く、やさしい区民が多いという意見が出たが、一方新しいマンション住民などが町会に入れないなど、新旧住民のコミュニケーションをどう進めていくのかという問題が挙げられた。また、病院が充実しているという意見と、病院が少ないという意見が両方出た。高齢者施設、市立病院の改善を求める意見も出た。

【子ども】 子育て世帯が増えて、活気が出てきたという意見があるが、子連れで行ける場所が少ないという意見が多く、遊び場や世代間が交流できるような公園がほしいという意見が多い。働いている親にとって子育てしやすい環境の充実や、小児の救急医療の病院の充実なども挙げられた。

【拠点・まちづくり】 圧倒的に東京・横浜方面や空港などへのアクセスが良いという意見が挙がった。また、文化施設や商業施設の充実や、ハロウィンなどのイベント、海に面していることなどの特徴的資源があることが確認された。一方で東京・横浜の通過点にしない文化都市にしたい、川崎のイメージが悪いことや知名度の低さをアピールしたいといった、イメージアップに関する意見が出た。

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

<p>①自転車利用環境の向上と交通安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅近くに自転車が減←バス（横の動きも向上） ・ JR川崎駅の各々動線をより安全に ・ マナーを学ぶ →子どもから親（母）へ伝える教室 ・ 放置自転車→駅だけではなくバス停周辺も多い →バス停周辺にもモラル向上の呼びかけを ・ ちょい停め駐輪をする人に向け、市が商店街と協力して呼びかける 	<p>③総合的な子ども支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の保育園少ない（民間は高い） →市の支援で、→大企業・工場の保育所の活用 →民間の保育料の差を埋める ・ 小児医療（小学校まで）→負担金制度 お母さんも安心して働ける環境を！ ・ あそべる場が少ない→学校の利活用 ・ 放課後の居場所←保育士の資格をもった教育系の学生の活用を
<p>②高齢化の進行と地域コミュニティの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティって何？→地域社会・行政と人材的つながり ・ 行き先 × 担い手 × 人が使いやすい環境づくり →高齢化は怖くない！ ・ 既に場・施設はあるのでPRの改善をする →使い方の・説明を具体的に →ホームページを改善 →チラシは文字を大きく、わかる内容に ・ 地域を支える人材は意外と多い →はじめの一步講習を行う 	<p>④観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎の悪いイメージ→新しい良いイメージに改善したい ・ 競輪を良いイメージでPR・活用する ・ 臨海部を活用→アクセス向上 ・ つなぐ（世代、場所） ・ 健康づくりにつながるイベント ・ 声を出していくPR→マンパワーを有効活用！

高齢者の知恵を若い世代に活用

元気な高齢者を増やそう

マンパワーを有効活用！

午後の議論の傾向

【自転車】 自転車利用の問題に対して、公共交通（バスなど）を活用することで駅に集中する数を減らすこと。自転車のマナーが悪い問題に対して、マナーを喚起する手段を充実させること。放置自転車の問題に対して、商店街などの民間事業者との連携を進めることなど、自転車に関する議論が中心となった。また、JR川崎駅のバス、歩行者、自転車の動線の整理が必要という提案が挙げられた。

【高齢者】 地域に必要なサービスや取り組みや場は、知られていないがあるということが確認され、それをいかにPRしていくか、活用するかという議論があった。地域に関わりたい人材は意外と多く、そうした人材をいかに地域につなげていくかということが議論された。

【子ども】 子育て層が安心して働きながら子育てができるよう、民間の保育園への補助を通して認可保育園並みの負担を抑えること、小児医療を充実させることなどが議論された。遊べる場が少ないという問題に、学校の活用や、その場の運営に関わる人材として教育系の学生の活用が挙げられた。

【拠点・まちづくり】 川崎の悪いイメージを、良いイメージに変えたいという議論があり、既存の資源をうまく活用していくこと、資源同士をつなぐなどのアイデアが出された。また、区民が地域の様々な場に積極的に訪れることで、健康づくりにつなげるという議論もあった。

4つのテーマを横断する傾向

・ 無いと思ったら実はあったという気づきが多く見られた
→いろいろなものが知られてないということが課題
→どうやってPRしていくのかを考えることが大事
（通常の広報だけでは無関心な人に届かない。市民の力で声を出していくことが大事）

・ 無い物をつくるのではなく、既存の資源を活用することが大事
→イメチェンすること × 点在する資源をネットワークすること

・ まちの良いところ × 高齢者→健康づくり（元気な高齢者が多いまち）

・ 地域の人材を求める人とつなぐことが大事
・ 元気で知恵のある高齢者→子ども・子育てする親の支援に
・ 子どもへの教育→母親（家族）へのマナー教育に

コミュニケーション力を高めよう！

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①災害対策	・平坦な道が多い ・治安が良い	・道が狭い、住宅地の道がいらくんでいる ・車優先 ・防犯
②高齢化	・医療機関が充実	・高齢者が安心して歩けない ・情報弱者への対策必要
③子ども支援	・子育て世代が増えている	・保育園不足 ・小学校の学級数が偏っている
④拠点整備 コミュニティ	・交通の便が良い（東京・横浜・空港） ・お店、駅へのアクセスが良い ・町会、PTAなどが元気 ・人懐っこい古くからの住民が多い ・新拠点ラゾーナ	・区内の移動が不便 ・区役所へのアクセスが悪い ・新しいマンションは町会加入が少ない ・昔ながらの商店街に活気がない ・ミュージアをもっと活用（市民に聞く）
その他のテーマ	・川辺の資源・自然 ・歴史（二ヶ領用水、加瀬山） ・夢見ヶ崎動物公園	・ホームレス・ゴミの問題 ・川崎市民としてのアイデンティティを！ ・ホテルがない、大型スーパーがない

テーマ③ テーマ3: 将来（10年後）私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 ・車社会→歩道・自転車 ・治安を良く ・自転車のルール・マナーを ・歩道→車椅子にも	防犯カメラ充実 犯罪の抑止力 アップ 条例	福祉・医療 ・地域で見守り ・高齢者、障害者が住みやすいインフラ
子ども ・出生率を上げるための支援を 駅近くに保育の施設を ・子どもに補助金少ない ・小児医療費助成の対象年齢の引き上げ	駅近くに 保育の施設を	みどり・環境 ・公園を増やしたい ・マンション建設をやめてみどりを ・多摩川の水辺を活かす ↓ ・エコ都市化
拠点 ・道路を整備 ・バス便を充実 ・南武線特急 ・踏切削減（高架化） ・新川崎駅周辺 ・ミュージアは全国的にも優れている	バスの降車区間など市バス にマイクロバス、 わかりやすい路線図	観光 ・音楽のまちの実感ない →ミュージアを市民が活用、市民招待で 良さを実感したい ・夢見ヶ崎動物公園をアピール ・ホテル少ない←外から来た人向け
協働・行政サービス ・市民間のコミュニケーションが少ない（新旧住民） ・手続きを駅前 ・70以上の高齢者→PTAに協力→子ども見守り ・川辺で利用できる施設	挨拶したい...	その他 ・共通してPRが悪い ・外国人とトラブルがない→融合

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

【災害対策・交通安全】 幸区は平坦な道が多いが、一方で道が狭く、住宅地の道が入り組んでいること、車優先で歩行者にとって安全ではないという印象であることが挙げられた。また、治安が良いという意見と、防犯に問題があるという対立した意見が寄せられている。10年後に向けて、**車優先から歩行者や車椅子にもやさしい環境にすること**、自転車のルール・マナーの徹底や自転車道の整備などが挙げられた。また、治安を良くするために、防犯カメラの充実など犯罪の抑止力を高める工夫が必要というアイデアが寄せられた。

【高齢化】 医療機関が充実しているというのが良いところとして挙げられ、交通問題と連動して高齢者が安心して歩けないという問題、情報弱者への対策が必要という意見が挙げられた。10年後に向けて、**高齢者や障がい者が住みやすいインフラの必要性**、バス路線の充実（フリー降車区間を設ける、マイクロバスを走らせる）、わかりやすい路線図情報を提供するなどが挙げられている。また、地域での見守りが大切ということも挙げられた。

【子ども支援】 良いこととして子育て世代が増えていることが挙げられ、一方保育園不足や小学校の学級数が偏っていることなどが問題として挙げられた。10年後に向けて、出生率を上げるための様々な支援の必要性が挙げられた。具体的には、駅近くの保育施設の充実、補助金や医療費の補助などが挙げられている。

【拠点整備・コミュニティ】 交通の便が多いという意見が多い反面、区内の移動が不便という意見も多く寄せられた。また、お店や駅へのアクセスが良いが、区役所へのアクセスが悪いことも挙げられている。コミュニティに関しては、**町内会・自治会などが元気**で古くからの住民が多い反面、新しいマンション住民は町会への加入が少ないことが挙げられた。新拠点のラゾーナはにぎわっている反面、昔ながらの**商店街に活気がないこと**、**ミュージアをもっと区民に活用される資源**とすべきという意見が寄せられた。10年後に向けて、**【高齢化】**に記載したようなバス路線の充実や、南武線の特急化、鉄道の高架化等による踏切の削減、道路の改善が挙げられた。ミュージアを有した区であるが音楽のまちであるという実感が少なく、区民への招待をするなど区民の利用を高めるようにすること、夢見ヶ崎動物公園を観光資源としてアピールすること、外から来た人に向けた宿泊施設の充実などが挙げられた。コミュニティについては、新旧住民のコミュニケーションの機会を増やすことなどが挙げられた。そのために子どもやペットを通じたコミュニティづくり、高齢者がPTAに協力した見守りなどのアイデアが出された。

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

<p>①災害対策や交通安全など安心安全</p> <p>・災害対応 → 情報伝達 ← 複数の手段持ち必要な人に届ける。情報弱者にも届く 防犯</p> <p>防災放送を聞きやすく ・地域組織が連携し情報共有 ・災害発生→シミュレーション ・自転車ルール</p>	<p>③総合的な子どもの支援の推進</p> <p>・高齢者が地域で連携 ↓ 遊べる場 公園みんなで使う ・小児医療の補助 ・学童保育を充実させる ・近所の方の預り協力、市立への協力</p> <p>町内会自治会に若い世代が積極的に参加</p>
<p>②高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる</p> <p>・元気な高齢者が支援側に→ビジネス化 講師としてスキルを伝達 ・すでにある事業をPR ・人材バンク ・ワンストップサービス⇔NPO 立ち上げる ・市区との協働</p>	<p>④駅前拠点整備と新たなコミュニティづくり</p> <p>駅 → シンボル・モニュメントの魅力アップ コミュニティを充実させる場 施設 駅に行政サービス</p> <p>共通の趣味などでコミュニティをつなぐ</p>

午後の議論の傾向

【災害対策・交通安全】 災害対応や、防犯には、情報伝達が大切であり、そのためには複数の手段を持ち、情報弱者にも届くよう徹底が必要で、防災放送をもっと聞きやすくという意見が挙がった。情報伝達の強化に向けては、地域組織が連携し情報を共有すること、**災害発生時のシミュレーション**を徹底することなどのアイデアが寄せられた。また、自転車のルール・マナーは地域で見守る人、声をかける人が大事というアイデアが出た。

【高齢化】 元気な高齢者が支援側につける環境が大事という議論になり、地域ビジネスや、スキルのあるシニアが講師となること、人材バンクなどのアイデアが寄せられた。また、既にある事業をもっとPRしていく必要があるという意見、NPOを立ち上げ、介護支援情報のワンストップ・サービスの窓口をつくるといったアイデアが挙がった。

【子ども支援】 高齢者が地域で連携し、子どもの支援に関わることが挙げられた。遊べる場、公園をみんなで理解し使えるようにすること、近所の方の預り協力などが挙げられた。また、学童保育の充実、小児医療の補助の必要性も挙げられた。また、町内会・自治会に若い世代が積極的に参加することも大事という意見が挙げられている。

【拠点整備・コミュニティ】 駅にシンボルやモニュメントなどを設けて魅力アップすること。駅に行政サービスを設けること、駅にコミュニティを交流させる場や施設を設け、**共通の趣味などを通して新たなコミュニティを育む**など、**駅を中心にした地域の交流～コミュニティづくり**の機会を育むアイデアが寄せられた。

4つのテーマを横断する傾向

・情報がきちんと届くことが大事

→既にある情報が区民に伝わっていないという気づきが複数のグループにあり、それを伝えるために複数の情報手段を持って区民に届ける体制が必要というアイデアが寄せられた。

・みんなで地域の人も協力して実践すること

→古くから地域に住む人と新しい住民が交流し、コミュニティを育むことが、高齢者の問題や子ども支援などテーマを横断した課題解決につながるというアイデアが寄せられた。これは各区のワークショップで共通する話題でもある。

→また、新旧のコミュニティだけではなく、趣味などでつながる新たなつながりづくりの可能性が寄せられている。

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①防災防犯	・治安が良い	・大雨による水害が心配 ・街灯が少ない ・ 等々力緑地 夜が暗い
②自転車	・平地が多く自転車の移動範囲が広い	・交通マナーが悪い！ ・放置自転車多い（ブレーメン） ・ 道が狭い！ （府中県道の歩道） ・一通が多い
③高齢者	・デイサービスが多い ・病院・障害者施設が充実している	・高齢化が進み地域の担い手が不足
④子ども	・ 子どもが多い ・子育てしやすい ・ベビーカーで移動しやすい（平地） ・ 等々力緑地 （遊び場） ・保育園が多い	・子育て支援をもっと充実 →子育て NPO の支援を！ ・子育て支援センターで絶対数のフォローができていない ・保育所・学校の不足（人口増）

テーマ③ テーマ 3: 将来（10 年後）私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 ・避難所の増設・耐震化 ・マナーの教室 ・歩行者・自転車が安心できる道路	福祉・医療 ・障害のある人の地域参加 ・要介護の人が幸せに暮らせるまちに ・ 多世代が気軽に集まれる場が増える ・高齢者も集まることができる
子ども ・教育設備の充実→ 中長期的視野が必要 ・子育て支援強化 ・こども文化センターを地域の拠点に（子育て支援センターや NPO との協働を強化） ・遊べる公園を増やす ・中学校給食を（業者契約）	みどり・環境 ・ごみ置き場を路上ではないところに設置する
拠点 ・ 地区内の移動の不便を解消 ・地域限定高齢者向けのミニバス（徒歩 20 分） ・インフラ整備を急ぐ→都市計画推進 ・公共駐車場少ない→増	観光 ・オリンピックに向けて何かできないか ・江川せせらぎ遊歩道のような休める場を ・温水プール
協働・行政サービス ・集約した行政サービス→コンビニなどで実施 ・下町の良さも活かす	その他 ・区のことを住民がよく知ろう →いろいろな解決策につながる

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

中原区の特徴として4つのテーマ以外で多く挙げられていたのは、**武蔵小杉の再開発による発展や、ブレーメン通り商店街などまちに活気があり、住みたいまち No.1** と言われていることなどが良く、その反面、**インフラの整備と開発のバランスが悪く、道の渋滞や事故の増加、人口増加による学校や保育施設不足などが問題として挙げられた。**また、交通の便が良い反面、区内の移動環境が悪いという意見。等々力緑地や二ヶ領用水などのみどり、音楽のまち、スポーツが盛んなまちであること。昔はイメージが悪かったが、今は良くなったという意見や、悪い意味で東京周辺のまちの1つと捉えられているのではという意見もあった。

【防災・防犯】 治安が良いという意見がある反面、街灯が少ない（具体的には等々力緑地が夜が暗い）という意見が寄せられた。また、防災に関しては大雨による水害が心配という意見も出た。10 年後に向けて、避難所の増設や耐震化が必要という意見が寄せられた。

【自転車】 中原区は平地が多く、自転車で移動できる範囲が広いことが良いこととして挙げられた反面、交通マナーが悪いこと、放置自転車が多いことが問題として挙げられた。また、道が狭いという意見が多く、具体的には府中県道の歩道が狭いことが挙げられた。一方通行が多いという意見もあった。10 年後に向けて、歩行者や自転車が安心できる道の整備の必要性や、自転車等のマナー向上について意見が寄せられた。

【高齢者】 デイサービスが多いことや病院・障害者施設が充実していることが良いこととして挙げられ、一方で将来の高齢化が進むことへの不安が挙がった。10 年後に向けて、要介護になっても幸せに暮らせること、障がいのある方も地域参加ができること、高齢者も気軽に集まれる多世代交流の場が増えることなどが挙げられた。また、高齢者の地区内移動がしやすいように、地域限定のミニバスなどのアイデアも寄せられた。

【子ども】 子どもが多く、子育てしやすいこと、平地が多いのでベビーカーで移動しやすいこと、遊び場としての等々力緑地があることや、保育園が多いことなどが良いこととして挙げられた。問題点として、子育て支援をより充実させるために、その担い手である子育て NPO への支援を進める必要があるということや、子育て支援センターが子どもの絶対数に対してフォローできていないこと、武蔵小杉などの人口増加に伴い、保育所や学校が不足することなどが挙げられた。10 年後に向けて、**人口増加に対応した施設の考え方は、中長期的な視野を持って保育施設から教育施設に切り替えるなど柔軟に変化させることが必要**というアイデアや、こども文化センターを地域の拠点にすること、遊べる公園を増やすこと、子育て支援センターと子育て支援 NPO との協働を強化すること、中学校にも給食をという意見が寄せられた。

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

<p>①地域防災力の向上と防犯対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助が必要 ・市民⇄行政 ・コミュニケーションが必要！ ↓ ・今の時代にあった手段を ・地域コミュニティを活かそう <ul style="list-style-type: none"> →夏祭り ・こども文化センター × 消防署 <ul style="list-style-type: none"> →場の活用 ・企業 × 商店街 <ul style="list-style-type: none"> →話し合いの場をもっとつなげる 	<p>③高齢化の進行と支えあいの体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人ホーム絶対数足りず →空き教室・子どもたちが交流できるホーム ・資金集め→ビジネス ・ヘルパーの賃金アップ →寄付（共感集める） ・元気な人、空き時間に声かけお話し（日常の）
<p>②自転車利用環境の向上と交通安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平坦な地形→自転車を利用しやすい ・道幅を広げられなくても段差をなくすなど、バリアフリー化したい ・マナーの向上→基本ルールを知る ・駐輪スペース→運用のしくみ ・商店街→空きスペース ・自転車のまち→楽しく利用 	<p>④総合的な子ども支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合った保育サービス ・子育て支援センターを核に親子と地域をつなぐ ・あそび場をどう確保するか <ul style="list-style-type: none"> 公園は安心して幼児が遊べない→広いスペース→学校の校庭？

午後の議論の傾向

【防災・防犯】 共助が大切ということで、夏祭りなどの新住民が参加しやすい入口となる行事の充実を通して、地域コミュニティを充実させようというアイデア。市民と行政とのコミュニケーションがもっと必要で、今の時代に合った手段（日頃は生活に役立つ情報を流し、有事に緊急情報を届けるメディアなど）を考える必要があるという意見。企業や商店街とも語り合いの場をもっとつなげていくことが大事という意見。こども文化センターや消防署を防災資源と捉え、町内会・自治会と一緒に防災訓練を行うなどの防災対策などが挙げられた。

【自転車】 安心して歩ける環境をつくるために、歩行者、バイク・自転車、車の分離やバリアフリー化など道を改善していく必要があるのではないかという意見。自転車マナーの向上を図るためにまずは区民が基本ルールを学ぶ機会をつくるのが大事であるという意見。駐輪の問題については、通勤や買い物などの利用ニーズにあわせた運用のしくみづくりや、商店街や電鉄会社と連携した空きスペースの活用などを通して、楽しく安全に自転車を利用できるまちにしたいというアイデアが寄せられた。

【高齢者】 老人ホームの絶対数が不足してくることにに対して、学校の空き教室などを活用し、子どもたちやペットと交流ができるような場づくりがあると良いというアイデア。ヘルパーの賃金を上げていかないと人材が不足するのではないかという問題に対して、実のなる木（梅など）の収穫物を地域で売って資金づくりをすることや、共感を集めた寄付集めなどの方法についても議論があった。また、元気な人が空き時間を利用して高齢者に声かけや傾聴をするような機会をつくるなどのアイデアも挙げられた。

【子ども】 利用者のニーズにあった（→安くて使いやすい）保育サービスの必要性が挙げられた。子育て支援センターを核に親子と地域をつなぐことが大切というアイデア。また、公園は大きな子どもが遊んでいると幼児が遊べないので、遊び場をどう確保するのか？という問題があり、学校の校庭を開放するなど、遊びの場づくりを考えていく必要があるという議論があった。

4つのテーマを横断するポイント

・コミュニケーションを改善することが大事 × 今に時代にあった方法を考えることが大事
→環境は整っているが、利用者のニーズと合っていないということや、情報があるのに、届いてないといったミスマッチが起こっていることがそれぞれのグループから出され、今にあった方法で、コミュニケーションを改善することが、テーマを横断して必要であることが確認された。

・課題解決に必要な3つの視点
①あるものの使い方を工夫すること、②考え方（意識）を変えること、③自助・共助の力を上げることという視点がグループ全体を通して挙げられた。

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①災害対策		
②高齢化	・人と人のつながりがある ・町会活動すばらしい、 団結 してる	・大きな病院少ない ・ 地域の若者とシニアの交流少ない
③子ども	・子どもが多い ・ファミリー層多い ・病院、幼稚園、保育園、小中学校が駅に近い 子育てしやすい!	・保育施設が少ない ・遊び場が少ない ・子育て情報がつかみにくい ・医療負担が小1まで ・児童相談件数が多い ・わくわくプラザの運営が不十分
④歴史文化	・芸術のまち ・史跡が結構ある ・自然豊か（ホテル）新鮮野菜（農） ・多摩川が近い → スポーツ → みどりが多い	・映画館がない ・かすみ堤の保存を！ ・知名度低い ・ゴミ・ホームレスが問題
その他のテーマ	・フリーマーケット ・イベント情報が多い ・交通アクセスが良い ・買い物がしやすい ・掲示板の情報が活用できる	・車・自転車が危険 ・放置自転車が問題 ・電車が少ない ・道が狭い ・急坂が危険

テーマ③ テーマ3: 将来（10年後）私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車	福祉・医療
<ul style="list-style-type: none"> 安全に走れる自転車レーンを整備（歩道と自転車を分ける） 放置自転車をなくしたい 地域警察と連携して防犯対策 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の医療施設の充実 → 閉じこもりのケアを大切に 高齢者も移動しやすく 市立病院が大事（大きな病院が少なく救急をもう少し!） ※シニアと子育て世代をつなぎたいというのは4区共通
子ども	みどり・環境
<ul style="list-style-type: none"> のびのびと自由に遊べるように、子育てしたいまちに！（森林も活用） 休み中の中学生のバス利用負担減 安心安全に子育てできる環境 児童手当を高校生までのばしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 里山都市川崎最幸！ 平均的にみどりがあるまち
拠点	観光
<ul style="list-style-type: none"> 調和のとれた道路づくり 駅から遠いところにミニバス増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 大山街道（歴史的施設）を盛り上げる高津区のウリに！ 映画館を川崎駅以外につくってほしい フロンターレをもっと応援（スタジアムを10万人規模に）
協働・行政サービス	その他
<ul style="list-style-type: none"> 住民同士の団結を高めたい 	

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

高津区の4つのテーマ以外の主な意見は、**交通アクセスが良い**が、道が狭く、車や自転車が危険で、放置自転車も問題であるという意見が多数寄せられた。急坂が危険という意見もあった。

【防災対策】午前中は意見が無かった。

【高齢化】人と人とのつながりがあり、**町内会・自治会の活動がすばらしい**という意見がある反面、地域と若者とシニアの交流が少ないという意見が集まった。10年後に向けて、高齢者の医療施設（大きな市立病院、救急の対応も向上）の充実や閉じこもりのケアを大切にする必要があるという意見。駅から遠いところへ高齢者も移動しやすいようミニバスなど交通手段の充実が必要という意見。高齢者と子育て世代が交流できる場をという意見も挙げられた。

【子ども】子ども（ファミリー層）が多く子育てしやすい。病院、保育園、幼稚園、小中学校が駅に近いということが良い点として挙げられ、一方で、保育施設や遊び場が少ない、子育て情報がつかみにくい、医療負担が小学校1年まで、児童相談件数が多い、わくわくプラザの運営が不十分、中学に給食がないということが問題として挙げられた。10年後に向けて、のびのびと自由に遊べる、安心安全に子育てできる、**「子育てしたいまち」にしたい**という意見。また、中学生はお金がかかるので、休み中の中学生のバス利用の負担減や、児童手当を高校生までのばすなどのアイデアが出た。子育て世代とシニアとの交流や、駅から遠いところへの移動手段の充実が高齢化と同様に挙げられている。

【歴史・文化・地域の魅力】芸術のまち、史跡が結構ある、多摩川や新鮮野菜が楽しめる農家、ホテルなど自然が豊か、フリーマーケットやイベント情報が多い、図書館が多いなど、大切にしたい資源が多数挙げられた。多摩川は自然を楽しむだけではなくスポーツを楽しむ場ともなっているが、その反面、ゴミやホームレスが問題になっている。映画館が少ない、知名度が低い、史跡としてかすみ堤を保存すべきという意見が寄せられた。10年後に向けて、大山街道の歴史をもっと盛り上げて高津区のウリにしようというアイデアや、川崎駅以外にも身近に行くことができる映画館をつくってほしいという意見。フロンターレをもっと応援しようという意見。**施設は女性に選ばれるという視点でつくる**ことが大事という意見、**「里山都市川崎最幸！」**という意見などが挙げられた。

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

<p>①地域性に配慮した災害対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(仮称) ミニまちの防災情報の家」を増やす ・高津区の情報をキャッチ 日頃からやり取りが大事（ライフスタイルの共有） ・日中助け合う方法を商店街と共有 ・中学生を戦力に（防災授業） ・学校にいる人の安全を地域ぐるみで <p>日中まにに かにか わわ るる か が 人 が</p>	<p>③総合的な子ども支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きたい女性が安心できる→保育園の充実→ハコではなくサービスとしての対応 ・病院施設→クリニック併設 専門スキルありのシッターが病児フォロー ・あそぶ場→空き地 ・義務教育時の学割 ・こども文化センター → 一括して民間のプロに任せて防災拠点・交流拠点
<p>②高齢化の進行と地域の福祉医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と若者が気軽に集まれるコミュニティがほしい ↓ 場 + キッカケが大切 ← 行くことで貢献できる ・活躍できる場、仕事がある スキルを活かす・育てる マッチング ・福祉への理解 → 体験型の福祉教育（高校生） ・かかりつけ医 ・特養が高い → 誰もが入れられるように 	<p>④歴史や文化資源など 地域の魅力を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然里山、歴史、商業、エンタメ → バランスのとれたまちづくりをアピール ・子どもが歴史にふれる機会 体験する ・ゆかりのアニメヒーロー（キャラクター）もっと好きになってもらう ・食文化を内外 PR（例：肉巻おにぎり） → インカムを生み出す ・里山的自然で子どものころから五感を磨こう

高齢者と若者が
コミュニティでつながる
体験を通じた
学び

午後の議論の傾向

【防災対策】 防災に関する情報を身近で得ることができる場所として「(仮称)まちの防災情報ミニスポット」を、関係者（交番、お店、学校、コンビニ、民間企業など）と協力しながら増やしていこうというアイデア。行政の防災情報を効率的に受け取るしくみづくり。日頃からの人のつながりを増やすことで緊急時につながる。日中まちにいる中学生や商店街の人などに注目し、中学生の力を被災時に役立てるための防災授業の充実や、学校にいる子どもたちの安全を地域ぐるみで確保すること、商店街との連携方法を話し合うなどのアイデアが寄せられた。

【高齢化】 高齢者と若者が気軽に集まれる（行くことで貢献ができるような）コミュニティの場をつくりたい。その場に行けるキッカケづくりが大事という意見。高齢者が活躍できる場や仕事があること、そのために高齢者のスキルを、必要とされているところとマッチングすることが大事というアイデア。**福祉への理解を子ども時代から深めて行く**ために、高校生に向けた体験型の福祉教育をというアイデアが挙げられた。その他、気軽に相談できる「かかりつけ医」や介護施設や特養老人ホームに安く誰もが入れられるような環境を求める意見があった。

【子ども】 働きたい女性が安心して子育てできるよう、保育園の充実が必要という意見。専門のスキルを持ったシッターが病児をフォローできるようなクリニック併設の病児施設が必要という意見。義務教育の間は市バスや市施設の割引がきくしくみがほしいという意見。空き地などを活用した遊び場の確保というアイデア。こども文化センターを一括して民間のプロに任せ、防災拠点や、交流拠点としても活用するなどの意見も挙げられた。

【歴史・文化・地域の魅力】 自然里山、歴史、商業、エンターテインメントといったバランスのとれたまちづくりをアピールしていくことが大事という意見。子どもには歴史に触れるなど体験を通して学ぶことができる機会をつくりたいというアイデア。高津区ゆかりのアニメのキャラクターを、もっと知ってもらい好きになってもらうという意見。宮崎の肉まきおにぎりのように、**食を通して地域の文化を内外にアピールしていき、お金を生み出すしくみをつくっていこう**というアイデア。里山的自然に触れることを通して、子どもの頃から五感を磨くことができる機会が大事といった意見が挙げられた。

4つのテーマを横断する傾向

- ・ **体験を通じた学びが必要**
→若い世代に自然や歴史を学んでもらうために、「体験」というキーワードが共通して挙がった。
- ・ **ハコ物ではなくサービスとしてまち中に機能を増やすという発想が大事**
→まちの防災スポットや、保育園をハコとしてではなく既存の空間にサービスやしくみを付与する形で活用するといった発想でアイデアが寄せられた。
- ・ **高齢者が子どもの学びに関わることが大切**
→全区に共通するが、高齢者を人材として子どもや子育て層のために活かしていくというアイデアが寄せられた。

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①高齢者	・ デイサービスが多い ・ 高齢者ががんばっている	・ 高齢化は心配 ・ 高齢者のパワーが活かされていない ・ 高齢者が増え、移動が大変
②子ども	・ 子どもが多く活気がある ・ 保育が充実している ・ 河川敷に広い遊びのスペースがある (マンションが安くなり若い世代が入ってくれる)	・ 保育環境をもっと良くしてほしい ・ 遊び場が少ない ・ 学童保育のバックアップがほしい
③駅前拠点整備	・ 交通の便が良い (都心に行きやすい) ・ 混雑率が高い → コミュニティバス回送バス活用 ・ 交通が不便。公共施設にアクセスしにくい ・ トレーニングになる ↔ 坂が多い ↔	・ 坂が多く移動が大変 ・ 災害 (雨水)
④地域活動	・ 地域のつながりがある ・ 高齢者が頑張っている ・ 治安が良い・夜明るい	・ 住民の結びつきが弱い ・ 高齢者の力が活きてない ・ 治安が悪い・夜暗い
その他のテーマ	・ みどりが多い、公園が多い ・ 農家、地産地消	・ 公園が汚い ・ 建物が古い ・ スポーツ施設、図書館が不足

テーマ③ テーマ3: 将来(10年後)私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 ・ 自転車マナーの向上 ・ 安心安全 → 街灯を増やす ・ 防災 (雨水対策 → 谷にたまる)	福祉・医療 ・ 団地建替え → デイサービスつくる、元気な老人が働ける ・ 老人医療の充実 → 地域の見守り、在宅医療
子ども ・ 小さな公園整備 (遊び場増) ・ 寄付による土地有効活用 → 野球場、サッカー場 ・ 郷土愛を育む教育 ・ 私設の学童保育への支援	みどり・環境 ・ みどりをもっと増やす ・ 街路樹をもっと増やす
拠点 ・ 過疎化への歯止め ・ 交通整備 (子育て・高齢者向け) → 利便化南北の道 ・ 市営団地を再開発 ・ 小型バスが充実	観光 ・ 観光資源を活かす! ・ 地元をもっと知ろう!
協働・行政サービス ・ 老人 → 子どもつなぐ ・ 小さなコミュニティつなぐ (イベント) → 若者参加しやすい ・ もっとつながりを ・ 町会活性化 新旧コミュニティのコミュニケーション ・ IT インフラ充実 → どこでも WiFi → 防災・観光にアクセスできる	その他 ・ 野良猫対策 ・ 野川をもっとわかりやすく

午前の議論の傾向 (4つのテーマ別に)

宮前区は4つのテーマ以外には、**みどりや公園が多い**という意見が多く、**一方で公園が汚い**という意見、みどりや街路樹をもっと増やしたいという意見も寄せられた。農家があることも良いこととして挙げられた。また、図書館やスポーツ施設が不足している、建物が老朽化しているという意見もあった。

【高齢社会】 デイサービスが多いことや、**シニアが頑張っている**ことが良いこととして挙げられた。一方、高齢化は心配で、**将来的に坂の多いまちなので移動が大変になる**ことの不安が挙げられた。シルバーが頑張っていると挙げられた反面、シニアのパワーが活かされていないという意見もあった。

10年後に向けて、市営団地の建替えという問題が挙げられ、その際にデイサービス施設をつくることや、元気なシニアが働ける機会をつくることの必要性が挙げられた。また、老人医療、地域の見守りや**在宅医療の充実**が挙げられた。

【子ども支援】 マンションが安くなり子育て世代が入ってくることなどから子どもが多く活気があり、保育が充実していること。河川敷に広い遊びのスペースがあることなどは良いこととして挙げられた。一方、もっと保育環境を良くしてほしい、遊び場が少ない、学童保育のバックアップが少ないなどという問題が挙げられた。

10年後に向けて、小さな公園を整備し遊び場を増やすこと、土地所有者の寄付等による野球場やサッカー場などまとまったスポーツができる空間がほしいということ、郷土愛を育む教育や私設の学童保育への支援などが挙げられた。

【駅前拠点・地域交通】 都心へアクセスしやすいという意見が多く、バスも充実しているという意見もあるが、その反面、電車の混雑率が高いことや、**区内の公共施設のアクセスが悪い**ことなどが多数挙げられた。坂が多いという地形的特徴について、移動が大変なことや雨水による災害の心配が挙げられた反面、**坂はトレーニングになるなど健康面において前向きな意見**もあった。10年後に向けて、子育て層や高齢者に向けて南北をつなぐ道路をはじめとする交通整備の必要性、小型バスの充実、過密化への歯止めの必要性が挙げられた。

【地域活動・コミュニティ】 地域のつながりがあるという反面、住民の結びつきが弱い。シルバーが頑張っているという反面シルバーの力が活きていない。治安が良く夜明るいという反面、治安が悪く、夜が暗いと言った具合に良いことと悪いことの対立がみられた。10年後に向けて、シニアと子どもをつなぐこと、**小さなコミュニティをイベントなどでつなぐ**、新旧住民のコミュニケーションの必要性なども挙げられている。また、どこでもwifiにつながるなど、IT インフラを充実して防災や観光情報にアクセスできるようにというアイデアも挙げられた。

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

<p>①高齢者における生涯を通じた健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り→子どもに教える場 ・身近な交通手段（100円バスが走っていないところを循環）で、閉じこもらないように！ ・すでにあるイベントをわかりやすく伝える ・“お年寄り110番の家”を増やして安心して外出できる環境をつくる <p style="text-align: center;">↓</p> <p>コミュニケーションがとれる場にしたい</p>	<p>③総合的な子ども支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の負担を減らす！ →学童保育として「わくわく」があるが一部ではなく広く展開を ・老人から学びたい ・学童保育や認可保育園の充実 ・教育カリキュラムを見直そう <p style="text-align: center;">↓</p> <p>次世代が住みやすいまちに</p>
<p>②駅前拠点整備と身近な地域の交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス：コミュニティバス（高齢者向けに本数は少なくても良い） →フリー降車区間、回送バスの活用 ・鷺沼ロータリーが満杯になってしまう 自転車、歩行者→動線整理 田園都市線が止まった時の対策が必要 ・自転車のマナーアップ！ 	<p>④地域活動・地域コミュニティの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助・公助 ↓ ここをどうする 町会自治会のPR ・活動を通して得られるノウハウ共有 ・活動の拠点、集まれる場←敷居が高い ・情報のPR・共有を進める

午後の議論の傾向

【高齢社会】 シニアが家に閉じこもらず、地域で元気に活動できるようにするためのアイデアが寄せられた。一つはシニアが子どもに「教える場」をつくること、次にバス、トゥクトゥク、人力車など身近な交通手段が充実することで外出を促すこと、出ていくキッカケとしての既存のイベント情報をシニアにわかりやすく伝えること、「お年寄り110番の家」を地域に増やして、**外出後の安心できる環境を確保**するなど、いろいろなシーンを想定したアイデアが寄せられた。

【子ども支援】 子育て支援として、認可保育園や学童保育の充実を通して親の負担を減らすことが期待されている。学童保育の充実というアイデアでは高齢社会について議論したグループで出たアイデアと共通し、シニアから学ぶことができると良いという意見が出た。現在も「わくわく」があるが広く展開されることが期待されている。土曜日にも授業があれば親の負担は減るなど学校のカリキュラムを見直すことも考えられる。また、学童プラザ(仮称)という場を、学びと防災と地域コミュニティの拠点にしようというアイデアも出た。このようなアイデアを通じ、次世代を担う子育て世代が住みやすいまちにしたいという議論になった。

【駅前拠点・地域交通】 高齢社会について議論したグループと共通して、**高齢者も外出しやすい交通手段の充実**が挙げられ、バス路線の充実、フリー降車区間の導入、回送車の活用、コミュニティバスなどのアイデアが寄せられた。鷺沼駅のロータリーがすぐ混雑してしまうため、車、自転車、歩行者等の動線整理が必要という意見。田園都市線が止まった時のバスとの連携強化。坂が多いため、電動アシスト自転車が増えたことで、自転車需要が増え、自転車のマナーの向上が必要という意見も出た。

【地域活動・コミュニティ】 共助の力をいかに高めるか？そのために**町会等の活動の「見える化」**が必要で、身近な活動への参加やPRが必要という意見が出た。また、活動を通して得られたノウハウを共有すること、身近な活動拠点や、近所の人々がふらっと集まれる場の充実。こうした情報を地域にPRするための工夫が必要という意見が寄せられた。

4つのテーマを横断する傾向

- ・既にある資源を活用することが大事
→資源とは、活動、人材、情報、場所など多岐にわたり、これらの情報が区役所にあると言われても区民には知られていないのではないかという意見が多く寄せられた。
- ・次世代が住みやすいまちにするための多世代交流が必要
→シニアが子どもの学びに関わることで、子どもは学校では学べない教育を得ることができ、親の負担も減るといった考え方がグループを横断して寄せられた。
- ・高齢者が外に出るためのバリアを減らすことが必要
→坂が多い環境ということもあり、出歩くキッカケとなる身近な交通を考えることの必要性や、出歩く目的となる場や機会を充実する必要があることがグループを横断して寄せられた。

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①高齢者	・ 人間的にあたたかいコミュニティ	・ 高齢者が暮らしやすいまちに ・ 坂が多く移動が困難
②子ども	・ 子育てしやすい環境 ・ 子どもが多い	・ 若者がたまっていると怖い
③資源	・ 自然に恵まれている ・ みどりが多い （生田緑地・多摩川・二ヶ領用水 農家（梨畑）→季節の果物おいしい ウォーキングロード・サイクリングロードで散歩できる 魅力的な施設（民家園、藤子・F・不二雄ミュージアム、ばら苑、スポーツセンター） ・ 地域活動がさかん！	・ 自然の保護を（他の自治体と連携して） ・ 景観の配慮（住宅地造成） ・ 身近な公園をもう少し増やして
④駅前拠点		・ 駅がバリアフリーじゃない（遊園） ・ 道が狭い、一方通行が多い 稲田堤駅の改善
その他のテーマ	・ 交通アクセスが良い ・ 静か、住みやすい、買い物が便利 ・ みどりと住宅のバランスが良く 人口密度がちょうど良い 住みやすい	・ 区内の移動が不便、踏切 （横の移動） ・ 駐車が少なくマナーが悪い ・ 災害（特に大雨による災害）が心配 坂が多いが大丈夫か ・ 区内に働く場所が少ない ・ 公園の利用マナーが悪い ・ 転入者と地元のコミュニケーションが少ない

テーマ③ テーマ3: 将来（10年後）私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車	福祉・医療
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐輪場の拡充 ・ 自転車マナーの強化（ライト、左側通行） ・ 斜面地の防災対策 ・ 災害時の自給自足（自助・共助） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者医療制度の充実 ・ 高齢者の再雇用のシステム、年金に頼らない 社会の中で活躍できる環境 ・ 一人暮らしで生活できる体制（医療・介護） ・ 総合病院の増設
子ども	みどり・環境
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の給食、教師を増やす ・ 子どもが心豊かに成長（保育園～小中学校） ・ 預けたい人と中高年をマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然を支える多摩川を大切に →環境資源を活かしたまちづくり ・ 梨畑（農地）の保全 ・ 野良猫の管理
拠点	観光
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通機関の利便性→コミュニティバスの充実 （区内専用）バス路線の充実 ・ ロマンスクーを登戸に！ ・ 踏み切りなくし相互交流（跡地の緑道化） ・ 駅周辺の交通網整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多摩川の整備（より若い人が集まり活性化） ・ 三沢川を観光資源に（鯉を観賞） ・ 公共施設の充実
協働・行政サービス	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 退職者が活躍、公的機関の開放 ・ 転入者と地元の交流を ・ 自治会に入り周りの方を知る 	

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

まず、4つのテーマ以外で多く挙げられたのは、みどりと住宅のバランスが良く、静かで住みやすいという声。坂が多いまちなので、大雨による土砂災害の不安、転入者が多いが町会・自治会など地域とのコミュニケーションが少ないことなどであった。その他、駐輪場が少ないことや公園の利用マナーの悪さ等。

【高齢者】多摩区は、坂が多く高齢者にとって移動困難であること、高齢者が暮らしやすいまちにという意見が寄せられた。10年後の将来に向けて、一人暮らしでも生活できるような総合病院の増設など医療制度や介護の充実が挙げられると共に、高齢者が年金に頼らずに社会の中で活躍できるような再雇用やボランティアに参加できるシステムが必要という意見が挙げられた。また、子どもと高齢者の交流の必要性も挙げられた。高齢者の移動に関してコミュニティバスの充実も挙げられた。

【子ども】子どもが多く、お金をかけずに遊ばせる場所がある、子育てしやすい環境が良いという意見が挙げられ、一方で、公園などに若者がたまっていると怖いという意見もあった。10年後の将来に向けて、子どもを預けたい人とシニアをマッチングするなど、学校以外でも学べる多世代交流の必要性が挙げられた。また、中学校にも給食を、教師の増員、保育園から小中学校まで子どもが心豊かに成長できるまちにしたいという声も挙げられている。

【資源】自然に恵まれているという意見がどのグループからも挙げられた。特に、生田緑地、多摩川や二ヶ領用水、梨畑など季節の果物を楽しめる農家といったみどりの資源の意見が多く挙げられた。民家園やばら苑、藤子・F・不二雄ミュージアムといった施設が充実していて、地域活動が活発で施設の運営にもボランティアが関わっているということも挙げられた。10年後に向けて多摩川や三沢川、梨畑などの農地など豊かな自然と環境資源を大切にしたいまちづくりが重要という意見が挙げられた。

【駅前拠点】交通アクセスが良いが区内の移動が不便で踏切による地域分断が課題という声が多く挙げられた。拠点整備については、向ヶ丘遊園駅がバリアフリーではないことや、稲田堤駅の改善、道が狭く一方通行が多いなどの問題が集まった。10年後に向けて、駅周辺の交通網の整備、区内バス路線の充実や、踏切を無くすなどが挙げられた。

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

<p>①高齢社会における生涯を通じた健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしでも地域でその人らしく生きていけるような環境づくり 活動情報を GET 幅広い世代が交流できる日、場所で開催 いきいき体操など 外出でき、話ができる場 ITで情報が入手できるようシニアに若者が教える 退職者が人に役に立つ機会づくり 	<p>③豊かな自然や観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内、区外への多摩区の PR 梨畑を学び→食とコラボ 交通手段で資源をつなぐ
<p>②総合的な子ども支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 虐待・いじめ問題等を相談できる環境 子→親 サークル活動（親が相談）←専門家 学童保育の充実 子ども時代の体験 親だけでなく地域や他の大人が子育てに関わる 	<p>④駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な移動手段で区内の移動利便性をアップ 鉄道による分断 →地下化、高架化 or バリアフリー、歩道橋 行政から鉄道事業者に働きかける 買い物ができる商業施設を誘致 斜面地の安全性 →地滑りを抑える工事（ハード）や、ITを活用した情報発信（ソフト）

高齢者と子育て世帯が
地域の中で共に学び合う

午後の議論の傾向

【高齢者】 高齢者が一人暮らしでも地域の中でその人らしく生きていけるまちが大事という議論になった。そのために、既存のいきいき体操などにさらに幅広い世代が参加できるよう、日程や場所を広げること、外出して話ができる場を広げることなどのアイデアが出された。そして、自ら参加できる活動の情報を得る力が必要で、**高齢者にスマートフォンなど新しい情報ツールの活用の仕方を若い世代が教える機会をつくる**ことが挙げられた。また、退職者がいつまでも地域で元気に活動できる機会が重要で、子どもや子育て層を応援できるようにすることが大事というアイデアが出た。

【子ども】 虐待やいじめの問題に対して、子どもが相談できる環境が重要で、どこに相談すればよいかという情報を整理することが大事というアイデアが出た。子育てをする親が相談できる機会としてもサークル活動が重要という意見も出た。子ども時代の体験を豊かなものにすることが大事で、学童保育の充実や、地域の大人が子育ての応援に関わることができる環境づくりが大事という意見が出た。

【資源】 区内、区外への多摩区の魅力を PR していくことが大事という意見が出た。**企業・行政・学校が梨畑とコラボして学びの機会をつくる**ことや、小沢城址と梨畑とを組み合わせ地域資源と食とのコラボをするなど、食との資源を掛け合わせるアイデアが寄せられた。**点在する資源同士を交通遊歩道などでつなぎ回遊性を高める**ことが大事というアイデアが出た。

【駅前拠点】 バス路線の一層の充実、サイクルシェア、コミュニティバスや車の乗り合いなど**多様な交通手段で区内の移動手段を確保**すること。踏切によるまちの分断の解消。静かな住宅環境を保全しつつ、買い物ができる商業施設の誘致の必要性。斜面地の安全性の向上などのアイデアが出た。

4つのテーマを横断する傾向

・情報のルートを整理することが大事

- 他区のワークショップでは、情報が届かないという意見が共通して挙がっていたのに対して、多摩区では、IT を使いこなす力を教え合うなどしていかに「情報を取りに行く力」を持つかというアイデアが挙げたのが印象的である。
- その他、多様な情報を整理すること、内外への情報発信力を高めることが挙げた。

・高齢者も子育て層も地域の中で共に学ぶことが大事

- 多世代がつながるというキーワードは各区で共通して挙げられている。多摩区では学校で地域と子どもがつながる寺子屋の取り組みが始まっているので、これらが全区に広がることが期待される。

・移動環境を見直し、高齢者の暮らし、観光資源、商業施設などをネットワーク化をすることで、多摩区の価値を高めることが大事。

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①災害対策		
②高齢化	・病院が多い（医療が行き届いている） ・年輩の方はおおらか	・若い世代多いが 将来の高齢化が心配 ・子どもの保育を高齢者が手伝えな
③農と環境	・ 緑が豊か! （虫や鳥） →歩くのが楽しくなる ・農家が多く新鮮な野菜が食べられる ・公園が多い	・落ち葉掃除、雑草の手入れが大変 ・ 公園のメンテナンスが悪い、整備を充分に ・ゴミ分別のルールが守られない
④芸術文化	・ 芸術のまち として誇れる ・音楽会場、文化施設が多い ・スポーツが盛ん	・地元の人以外よみうりランドを知らない
その他のテーマ	・ 都心に行きやすい ・駅前も静か ・街並が美しく道が整備されている ・ 治安が良い ・子育てしやすい 保育園が駅近	・ 市内のアクセスが不便 ・道路が狭い、歩道に傾斜があり歩くのが負担 ・車がスピード出し危険 ・ 痴漢が出る、夜が暗い ・駐車場が少ない ・図書館の本が古い

テーマ③ テーマ 3: 将来（10 年後）私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 ・自転車を利用しやすく→駐輪場を増やす ・駅に機能集中しすぎ ・防犯・防災は他市との連携が大事	福祉・医療 ・高齢世代にも働く機会をつくる ・発達障がい→教育面の援助 ・高齢者への見守りに定期的な声かけ ・近隣同士の支え合い
子ども ・子育て支援の充実 ・子どもの医療費負担を少なく ・育児手当の充実 ・自分の意見が言える社会参加できる教育を	みどり・環境 ・野菜農家が高齢化→今後も引き継げるように ・公園の WiFi 化→なんでも調べられる、子どもにも良い ・ゴミ分別ルールの認識低い →子どもの頃から教育が大事 →自治会での周知を徹底する ・公園メンテナンス強化（人も増える）
拠点 ・丘の上までバス開通（今は中腹まで） ・ミニバスを走らせる （交通量が多いので自家用車を減らしたい） ・駅へのアクセス改善 ・カップルで楽しめる施設を増やしたい	観光 ・農業の開発 ・ふるさと納税の充実 ・大人も子どもも一緒に音楽・スポーツを ・世界に友人が増える→都市同士 ・パブリックアートを多く（アートのまちを充実） ・フロンターレを応援し川崎市を一つにしよう！
協働・行政サービス ・働くコミュニケーション ・市民通貨をつくり 余力パワーを活用 ・総合区制度の導入 ・市の広報の充実を	その他 ・外国人との協力的関係を

色々な世代が関わるイベントを

農を守り育てる

地区地域のコミュニケーションが大事

連携やコミュニケーションというキーワードがテーマを横断して出ている

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

【災害対策】 防犯・防災は町田市や稲城市など隣接する他都市との連携が大事という意見が出た。

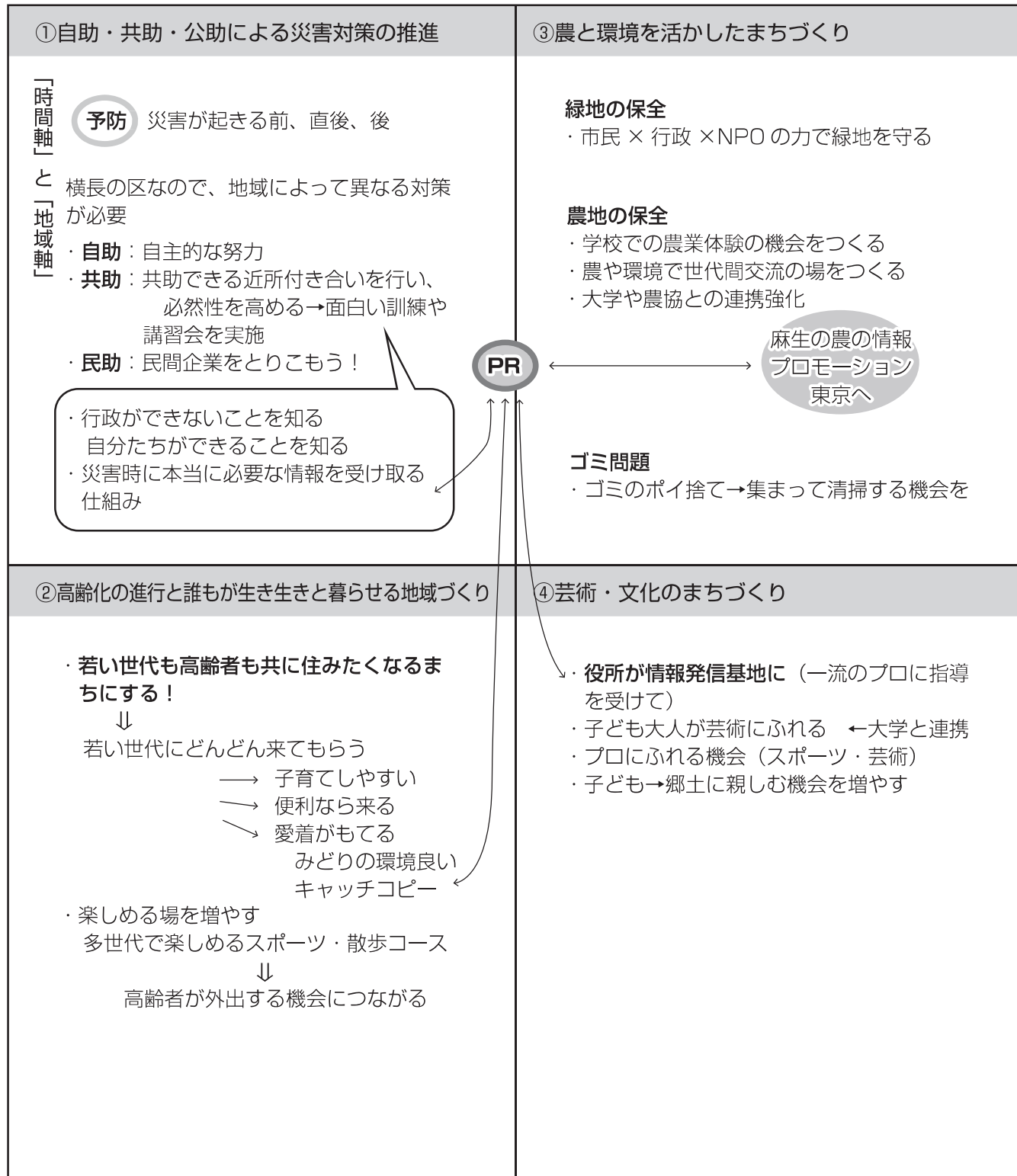
【高齢化】 病院が多く、医療が行き届いているという意見が多かった。まだ若い世代が多いが、将来の高齢化が心配という意見があり、高齢になっても地域で働いたり、子育ての応援や、近隣の支え合いなどで活躍の場があると良いといったアイデアが出た。そのツールとして市民通貨（地域通貨）をつくるというアイデアも出た。

【農と環境】 緑が豊かという意見が非常に多かった。公園が多いが、メンテナンスが悪いという意見が多く、メンテナンスを強化してもっと人が集まる公園にしたいという意見が出た。農家が多く、新鮮な野菜が食べられたり、農の風景が楽しめたりということが良い点として挙げられていたが、農家の高齢化で存続できるか心配という声もあった。農業を観光資源として開発しようという声も挙がった。ゴミの分別が守られないので、子どもの頃からの教育でしっかり伝えたいという意見もあった。

【芸術文化】 芸術のまちとして誇れるという意見や、文化施設が多いという意見が多く挙がった。またスポーツが盛んという意見もあった。10年後に向けて、大人も子どもも音楽やスポーツが楽しめるようにしたい、アートのまちらしくパブリックアートを増やしたい、フロンターレをもっと応援し、川崎市を一つにしようというアイデアも出た。

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換



午後の議論の傾向

【災害対策】「時間軸」と「地域軸」という2つの軸から提案が出た。時間軸は、特に予防が大事である。「地域軸」としては、麻生区は横長なので地域によってそれぞれの対策が必要である。「自助・共助」に加え、民間企業を取り込んで行こうという「民助」というキーワードが出た。行政ができないことを知るところから、自分たちができるところ（自助・共助）を知ること。災害時に必要な情報を受け取るしくみが大事という意見が出た。

【高齢化】 これからも若い世代がどんどん住みたくなるようなまちにしていくことが大事で、そのために子育てしやすいこと、みどり豊かで環境が良いことなどを対外的にアピールしていく必要がある。また、高齢になっても地域でキャリアを活かして働けるよう、仕事をつくるのが大事である。外出することが楽しくなるような機会や場を増やしていくことなどが挙げられた。

【農業と環境】 緑地の減少を食い止めるためには、市民 × 行政 × NPO の力で守ることが大切である。農地の保全については、学校と連携した農業体験の機会や、多世代で農や環境を通じた交流の場をつくること、大学や農協などとの連携を強化すること、そして、農の情報のプロモーションを東京に向けて発信していくことなどのアイデアが挙げられた。ゴミのポイ捨てについては、市民が集まって清掃する機会をつくるというアイデアも出た。

【芸術文化】 行政はさまざまな取り組みを行っているが、それが市民に浸透していないため、情報発信に関して一流のプロに支援を受けて情報発信基地としての機能を強化する必要があるという意見が出た。また、大学と連携して子どもも大人も芸術に触れる機会をつくること、スポーツや芸術などの区内在住のプロに触れる企画をつくること、子どもには郷土に親しむ機会を増やすことなどが挙げられた。

4つのテーマを横断するキーワード

- ・PRの強化！
思ったより区ではいろいろなことに取り組んでいることがわかった。それが区民に伝わるPRが必要。区内だけでなく、区外に向けても発信していくと良い
- ・大学連携 →農、芸術・文化
- ・プロ（区内在住の人的資源）→もっとステップアップするための外部の力を得る
- ・世代間交流
- ・子ども→郷土に親しみ、農に興味を持つ教育→世代交代へ
- ・仕事をつくる・地域で働く